

なきごえ



1975

7

大阪市
天王寺動物園協会

動物と私

蝶と私 奥原東久子

私は少女時代から生きものが好きであった。その中でも特に蝶にひかれていた。鞍馬、八瀬、嵐山と母に連れられて、よく採集に行ったものだ。弟達に蝶を採れという虫ではないからいやだと言ってきかなかった。この弟達もはるか大空へ旅立ち……。

私をはじめて紋付きの着物をつくることになった時、蝶の紋でないといらないといったら、母が困って色々探し、倉の隅から古い古い陣傘に蝶の紋を見付けてくれた。これは今も私の手元にある。その時、母が言った「一生この紋ですよ、という言葉は今でも忘れられない。それから私は蝶に魅せられて、蝶という工芸品に至るまで興味をもつようになった。奈良東大寺の八本脚の蝶を、雪の降る日に見に行ったこともある。

春、微風と共に訪れる輝かしい季節、自然へのあこがれ、野辺の花も山の彩りも歓喜に満ち、花にたわむれ、梢に乱舞する蝶の姿は一幅の絵であり、詩であり、虫に親しむ人々には幻想の世界だと思ふ。若葉の香りにむせびながら、果てなき虫への関心は迎える年毎に懐しく、緑の山々に招かれて蝶をたずねる旅に出してしまう。

かつての日、戦争は心も、物も、彩りも、うるおいも、自然へのあこがれもうばってしまった。公園や庭さえもイモやカボチャの葉でお、われた。唄を忘れた少年や少女達は、冷い学園の窓に永い冬の生活をくり返した。そして、焼跡の町の街路樹も芽ぶき、町の中にも泪ぐむ瞳のように灯もかがやきはじめ、庭の菜園にも蝶が訪れた。

戦後、箕面公園に居を求め、いよいよ蝶と虫への

語らひは続く。はじめて二上山へギフチョウの採集行。山桜の花が今を盛りと咲く中に飛ぶその姿の優雅さに魅せられた。この蝶が昔は私の家のまわりを飛んでいたという。めぐりくる陽春、きまって新聞紙上ににぎわす蝶、「春の女神」、日本特産、春を飾りつづける蝶、五色の翅もあざやかに舞うその姿の美しさ、私はめぐりくる季節を待ちつづけ、花便りを聞くとたまらなくあの二上の疎林へ行く。数え切れない蝶の先輩、阪口先生、滝尾先生、吉田様、服部様、横山先生……と想い出はつきない。

私が始めてギフチョウを飼育した時の驚きををノートにこう書いてある。「天は二物を与えずとか……、カンアオイの葉裏に金緑の真珠を産み、孵化を見つめ、この幼虫からあの美しい蝶が……。」

あれから三十年、少なくなりつゝある蝶と虫へ限らない愛と感謝を捧げ、子供達へ自然のこの素晴らしい森を大切に、生きることの尊さと素晴らしさを教えてくれるだろう。自然は美しい花を咲かせ、山の樹々は小鳥達に実をつけてプレゼントをし、さえずり、楽しませ、生きるだろう。

私はこの四月、虫塚を建てた。かつての日この箕面にいた蝶、蟬、トンボ、甲虫、その他さまざまな数知れない虫達。枯葉の散る如くいたというテングチョウ。この虫と蝶をレリーフして黒御影石にはめ込んだ。幼ない子供達は手でさわり、大人達は思い出してほしい……虫の名を……。

自然を飾り続けた蝶と虫、飛び去った虫と蝶への感謝と祈りを捧げて……。

(箕面市みのお公園内旅館 津乃村)

なきごえ7月号もくじ	
動物と私	2
シマウマの赤ちゃん誕生	3
動物園グラフ	4・5
2種類いた日本狼	6・7
天王寺のどうぶつたち(6)	8・9
獣医室から②	10
動物園ニュース	11

表紙の写真説明
“カツオドリ”
熱帯、亜熱帯地方に分布する鳥です。日本近海にも時々飛来しますがこれは昨年8月、南洋を航海中の船に保護されて当園に来たものです。



“シマウマの赤ちゃん誕生”
6月3日誕生しました。母親はこれが4度目のお産で、じょうずに育てています。今度生まれた仔はオスで、ゼブと名付けられました。

動物園グラフ

“赤ちゃん誕生” part II

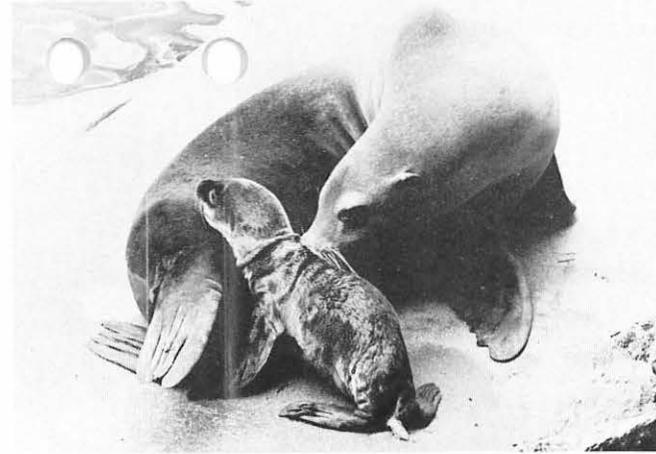
5月号のグラフで、3月～4月に誕生したライオン、バーバリーシープ、ジャッカル、カバ、ニホンザルをお知らせしましたが、今回はそれ以後に生まれた赤ちゃんを特集してみました。



↑ハイロカンガルー
最近、ずいぶん大きくなり、せまい袋の中ではきゅうくつそうです。
8月頃には外に出てくるでしょう。



↑シュバシコウ
今年は全部で7羽もふ化し
元気よく育っています



ハナグマ →
昨年に続き、今年も2頭誕生
しました。(4月16日誕生)



←アシカ
今年は3頭誕生しました。
生まれて2、3日たてばもう
泳ぐことができます。
(6月9日、14日、22日誕生)



←エランド
今度生まれた仔はメスでジニーと名付け
られました。(6月9日誕生)



ブラックバック →
生まれて1時間もたてば
もう立派に歩けます。
オスだけに元気がいいで
す。(6月9日誕生)

5・6月の動物園日記

5/21. 治療中のカタジロワシが死亡しました。

フラミンゴが1羽ふ化しました。

26. 皮下気腫を起こして衰弱気味だったクロエリハク
チョウが死亡しました。

ニホンシカが1頭生まれました。

昨年生まれたアシカの仔の体重測定をしたところ
21kgもありました。

27. フラミンゴが1羽ふ化しました。

ライオンの老オスが血をばき、治療中です。

シュバシコウが3羽ふ化しました。

28. 冷房ペンギン舎に冷房をいれ、キングペンギン、
マゼランペンギン、イワトビペンギン、ケープペ
ンギンなど14羽を移しました。

29. ニホンシカが1頭生まれました。

30. シュバシコウが1羽ふ化しているのが確認されま
した。これで今年は計7羽になりました。

6/1. ツキノワインコ1羽の寄贈がありました。

メンヨウの毛刈りを行いました。

3. シマウマが1頭(オス)誕生しました。

4. ヤギが1頭関節炎を起こし、治療しています。

5. フラミンゴが1羽ふ化し、今年はこちらで4羽誕生

しました。

キンウマが疝痛気味のため治療しました。

6. アカカンガルーの袋の中に赤ちゃんが入っている
のが確認されました。

7. ニホンザル1頭とオマキザル1頭の出産がありま
した。

8. エゾシカが2頭生まれました。

キンカジュウのメス1頭の寄付がありました。

9. エランド1頭(メス)、ブラックバック1頭(オ
ス)、アシカ1頭の出産がありました。

13. エゾシカが1頭生まれました。

治療中のウミワシが死亡しました。

14. アシカがもう1頭生まれ、これで今年も2頭誕生
です。

15. シロクマが回虫を排出しているので駆虫を行いま
した。

16. ボンネットザル1頭(オス)の寄贈がありました。

18. イワトビペンギンの爪が伸び過ぎているので切り
そろえてやりました。

19. エゾシカが1頭生まれました。

20. 飼育研究会が行われ、「シュバシコウの繁殖につ
いて」「カバの出産について」「欧米の動物園に
ついて」等の発表がありました。

2種類いた日本狼

—民俗学的研究から— 笠原宏也

世の中が公害だらけで生活にも夢がなくなると、現実を直視することを避けて幻想を追う人間が増えてくる。そのひとつに狼の生存を信じて、それを実証しようというのがある。

日本狼は明治三十八年に大和の鷲家口で捕えられたのが最後で、その被毛と頭骨は英人アンダーソンによって大英博物館に納められているというのが学会の定説になっているが、その定説の鼻をあかそうと大学の探検部や一部の物数奇が深山幽谷に分け入ったという話はよく耳にするところである。

ところで、日本狼の頭骨は丹沢山塊を中心として日本各地に相当数が保存されているが、剥製標本となると東大農学部、国立科学博物館、和歌山大学の三っしか残っていない。そのうち、最も信憑性が高いとされる和歌山大学の標本には、およそ十年を周期として、時どき狼ファンが見学に訪れるそうである。それらの人びとの中には、とりわけお医者さんが多いとは同大学の末松四郎教授のお話であるが、十年周期というのもなんやら世間の景気変動と関連があるようで面白い。

さて、この日本狼（エゾオオカミは別である）は学名を *Canis lupus hodophilax* TEMMINCK と名付けられ、ヨーロッパ狼やシベリア狼の親戚筋にあたる最小の亜種だと考えられており、これの存在したことはいまさら問題にする必要もないのだが、もう一つ柳田国男博士を中心とした狼に関する民間伝承の採集結果によると、この狼の他に、足の指間に「蹠（みづかき）」をもち、口の横に黒っぽい「くまどり」のある狼が存在したのではないかといいことである。

これが最初に記述されたのは『本草啓蒙』らしいが、柳田博士は「狼のゆくへ」というエッセイの中に左のように書いておられる。

—蘭山先生の本草啓蒙を見ると、狼は足に蹠（水掻き）あって能く水を渉る。豺には蹠無くして水を

渉ること能はずとある。是などもどうして実験したのか訝かしいことであるか、果して日本の事実であるならば、多分は多くの野獣を捕ったという獵師の話というのを伝聞したもので、強ひて信ずるにも及ばぬことのように私は考へて居た。ところが近頃になって、熊野出身の絲川恭平という人から、始めて紀州太地の灰買船の犬には水掻きがあるといふ話を聞いたのである。或は海を遠ざかった吉野の山林にも、此種が分布して居ないか。否、寧ろこちらの方が元で、熊野へ下って行って利用せられたのだといふことが、何かのはづみにもしや証明せられることになりはしないか。気をつけて居てもらいたいという話を鷲家口の座談会でもした。—

そして、さらにこの絲川氏が英国へ遊学し、自分の郷里には足に蹠のある犬がいると言ったところ一笑に付されてしまったので、口惜しさのあまりわざわざ郵船とかに依頼して、その犬を一頭熊野からロンドンへつれて来てもらったが、まだ仔犬だったため到着後間もなく死に、趾間の半分までしか皮膜は伸びて居なかったので完全な証明とはならなかったと興味ある話をかかげていられる。

このエッセイは昭和八年に書かれたもので口のくまどりについての記述はないが、さらに三十六年をへて刊行された柳田門下の千葉徳爾氏の『狩獵伝承研究』によると、この点がいつそうはっきりしてくる。内容は各地の獵師などからの聞き書きであるが、例えば大分県南海郡で採集された話では、「山犬は（中略）足跡は大きく指尖が広がるようになっている。口わきに黒い毛があるので大口のように見える」とあり、さらに著者の記述によると「信州遠州などでは、このあたりに住むのは山犬であって、狼というのは海岸や島などに住むものと聞いているなどという。あるいは紀州の勝浦などで狼の血をひいている犬はミズカキがあるなどというのと関係があるのか。」と説明されている。

とにかくこれらの論文を中心に、私が日本各地の狩獵や狼に関する伝承・写生図などを調べたかぎりでは、どうやら東北・関東から裏日本にかけて存在したのはやはり正統的なウルフであり、三重県から奈良、和歌山、高知、徳島、愛媛、大分県と太平洋沿岸地域にはミズカキのある狼がいたということになりそうである。

そこでもし、この狼が実在した動物であるとすれば、なぜ水掻きなどがある歩きにくい足で山中の生活をしたか？問題となる。それは水辺に棲息し、捕えやすい魚介を餌にして生活していたが、その進化からとり残された化石的な形態は、やがて真獣類の犬や人間に追いつかれる結果となり、山中へ移動を余儀なくされたのではなかったろうか。また推理を大きく飛躍させて、この狼が想像上の動物だったとすれば、それは黒潮による豊漁を祈って太平洋沿岸の漁民たちが、山国で田畑を鹿や猪の害から護ってくれる益獣としての狼を漁業の守護神として結びつけ、狼の趾間に水掻きを与えたのではなかったろうか。私にはどうも後者のように思えるのであるが、実物の標本を調べてみても和歌山大学のものにだけは口にくまどりがあって、しかも水掻きは無いのである。

とにかく謎につつまれた狼ではあるが動物学的にこれを実証することは、まず困難であろう。しかし学問的に認められたもう一方の日本狼というのは、その名付け親のテミンクによって立派にその存在が証明されている。戸川幸夫氏の『骨と影』という小説には、その前後の事情が見事に画かれているので引用させてもらうことにしよう。

—「（前略）骨や皮どころか、生きた日本狼が明治十一年に英国に運ばれて、ロンドンの動物園で飼育されていたのですよ」

と斎藤は言った。

「本当ですか？」

「本当ですとも。テミンクは例の有名な日本動物誌（*Fauna Japonica*）の中で一日本人のいうところのヤマイヌは形態といい、食物といい、全くわれわれの国の狼に比すべきものである。しかし足の短い点でわれわれの狼とは十分区別がつき、ヨーロッパのもの概念を異にすることが出来る—と語っています。これに対してハックスレー教授は「私は動物園で生きている立派な日本狼を見たが、単に狼の小さい型であるらしく思えた。しかしこの形態に近い頭蓋骨がないので、私は確定的な意見を述べることは遠慮しよう—と語っています。だからハックスレー教授はたしかに生きた日本狼を目撃しているのです」—

足の長さで区別された日本狼一けだし足の短いのは人間だけではなかったのである。その責は恐らく日本の島嶼的条件だったのであろうが、私はいま上野動物園にいるヒマラヤ産狼に、その面影を見出すことができるのではないかと考えているのである。

追記

今西錦司博士は、その論文の中で「新潟県の笹ヶ峰で一獵師から、狼の足には水かきがあるから、みな日本海を泳いでシベリアへ渡ってしまった」話を書いておられるが、もし想像をたくましくすることを許されるならば、この伝承は恐らく太平洋沿岸地方から伝えられたものではないかと思う。それは水かきのある狼だといわれる和歌山大学の剥製標本の被毛は、たとえ夏毛だとしても、この種の被毛ではとても裏日本の風雪に耐え得るものだとは思えないからである。それは十分な密生度をもった毛吹きであるが、あまりにも短く、むしろ海獣に近い被毛のように思われるか、それとても体型から見れば水に耐える海獣なみの皮下脂肪があったとは考えられない。ウルフのもつ、あの皮膚角に直角に生えた長く美しい被毛とはとても比べものにならないものなのである。 神戸市葺合区磯上通り（故人）

天王寺のどうぶつたち (6)

チンパンジー②

天王寺には6頭のチンパンジーがいることは、先月号でお話ししました。その中で他の5頭とは少し変わったけいれきを持っているのがキャンデーです。他の5頭はみな1才から2才の間に動物園にやってきたのですが、キャンデーだけは少し大きくなってから動物園にきました。それまではあるおばさんに飼われていたのです。そのおばさんは北千代さんといいます。

北さんはもともと大の動物好きでした。その上、戦争でご主人をなくし、戦争がおわって、たった一人の娘さんもなくなりました。北さんはさびしくてたまたま、イヌやネコを十数匹、その他サルや九官鳥を飼ってお友達にしてさびしさをまぎらしていました。そんな時、ある動物商がチンパンジーの仔を持っていることを知り、さっそくひきとりました。それがキャンデーだったのです。その時キャンデーは1才位だったそうです。北さんはまるで二人



うば車でお買物 (新関西新聞社提供)

目の子供ができたように育児の本や、ホ乳ビン、オシメ、洋服など人間の赤ちゃんんでいるものはみんな買いそろえてキャンデーを育て



お母さんどナイショバナシ (新関西新聞社提供)

ました。おもちゃも人間の赤ちゃんと同じでカタカタやミルク飲み人形、ブランコと、キャンデーのために買ってあげました。キャンデーを本当の自分の子のように思っている北さんはキャンデーが病気をした時、獣医さんには行かず、小児科のお医者さんに相談に行ったりしたのです。北さんはどこへ行くのもキャンデーといっしょです。散歩をする時はキャンデーをネンネコでおぶって、買物に行く時はキャンデーをうば車にのせて行きました。もちろんキャンデーもこんなに一生けん命育ててくれる北さんの愛情がわからないはずがありません。北さんを本当のお母さんのようにしてやっています。だからキャンデーはとっもおぎょうぎのよい赤ちゃんでした。北さんはうば車で市場へ行って大好物のバナナがあっても決して手を出したりしません。家にいる時は三輪車やスベリ台でおとなしく遊んでいました。トイレだって一人でできました。その頃のキャンデーの一番の楽しみはテレビと夜飲むビールだったそうです。テレビが始まると、テレビの前にすわり込んで目をこらして画面をみつめていました。とくに動物が出てくるとカン声をあげてよろ

こんだそうです。ビールの方は女の子のくせに毎日夕食の時に飲んでたそうです。まるでみんなのお父さんのようですね。

このようにキャンデーは北さんに本当の子供のようにかわいがられ、お風呂に入るのも、ねるのもいっしょ、といった具合にとっても幸せにいらしてきていたのですが、やはり北さんと別れなければならない時がやってきました。キャンデーはととてもやさしいチンパンジーだったのですがどんどん大きくなり力もとても強くなってきていたのです。このままでは他の人にかみついたりしてめいわくをかけるかもしれないということで、北さんは自宅と同じ市内にある天王寺動物園に寄附することに決めたのです。でも、このことを決めるまで北さんはいく晩もなやみぬいたそうです。そして昭和39年2月16日、キャンデーは天王寺にやってきました。

北さんはキャンデーが他のチンパンジーにいじめられるのではないかととても心配したのですが、



動物園に来た頃のキャンデー

キャンデーはリカやシュジーとすぐ大の仲良しになりました。こんな所もチンパンジーは人間の子供と同じです。それから北さん



仲の良いリカ(左)とキャンデー(右)

の動物園通いがはじまりました。そのころはまだ地下鉄がなかったのでバスの定期を買って、毎日たぐさんのおみやげを持ってキャンデーに会いにきました。本当に雨の日も風の日も、北さんはキャンデーに会うために動物園に通い続けました。キャンデーも北さんが毎日やってくるのをとても楽しみにしていたそうです。ところが昭和47年になって北さんはガンにかかってねこんでしまいました。そして半年ほどでなくなりました。北さんはなくなれる直前までキャンデーのことを心配していたそうです。でもかわいそうなことにキャンデーには北さんがなくなれたことなどわかりません。しかし、いつもおみやげをもってきてくれる北さんが来なくなって何かへんだなあと思っていたのではないのでしょうか。

キャンデーはいま14才です。北さんのところにいたころにくらべるととても大きくなりました。リカというりっぱなおムコさんもいるキャンデーが早く赤ちゃんを産んでくれないかなあと飼育係のおじさんたちはみんな期待しています。

(飼育課 長瀬 健二郎)

獣医室から ②

◎バクの下顎部膿瘍

先月号でアメリカバクのテレサちゃんの食欲不振をお知らせしましたが、やっとそれもなおったと思ったら、今度は微熱が続いて又、食欲不振になってしまいました。バクの平熱というのは36.5℃位なのですが、37～38℃位ありどうも不調でした。普通、動物の体温というのは直腸温といって、肛門に体温計をさしこんで測ります。3日ほどたった頃、右のあごの部分が妙にはれているのに気づきました。さわってみますと熱っぽく、非常にやわらかで波動性があります。この下顎部にできたはれ物のために、食物をかむ際、痛みを感じて食欲をなくしてしま



ったのが原因のようです。早速治療することにして、まずこのはれ物が何かを調べるために太い注射針で試験的に穿刺してみました。中からはうす黄色のクリーム状のうみのようなものが出てきました。当初、カビの一種から起る放射菌症や結核から由来したものかと疑いましたが、顕微鏡検査やツベルクン反応の

結果からその疑いもなくなり、どうやら単純な膿瘍のようです。そして膿を排出させるためにメスで一部を切開して排膿することになりました。一口に切開するといっても麻酔せずにするわけですから大変です。テレサちゃんのあごをなぜながらすきを見てグサッと突くわけです。切開するとかなりの量の膿が出ました。次に広範囲の細菌に効果のある抗生物質とサルファ剤を注射しました。最初は元気もなかったせいか保定なしに注射できましたが、2回目からは注射器を見た



とたん逃げ出し、こちらテレサちゃんの後を追いかけて、すきを見てお尻にやっと注射しました。どうもテレサちゃんは注射ぎらいのようで、注射するたびに走り回られては体力の消耗につながります。そこで好物のリンゴの中に抗生物質をまぜ

て与えることにしました。リンゴにつられて喜んで食べていたテレサちゃんも、その内抗生物質の苦味に顔をしかめ出し、毎日薬を与えるのが又、困難になってきました。それでもなだめすかしながら？2週間ほど続けたら、はれもすっかりひいて食欲も回復し、今では元のように元気一杯です。°

◎カンガルーの別居

ハイロカンガルーはオス2頭とメス1頭を一語にしていたが、5月20日仮の仕切りを設けてオスとメスを別居させました。なぜこんなふうに強制的に別居させたかという、実はメスの袋の中に赤ちゃんが居るからなのです。昨年、一昨年と同じ時期にやはり袋の中に赤ちゃんが入っていたのですが、その頃にオスがメスを追いまわして2回共赤ちゃんが死亡してしまったにが経験があるだけに、今年こそはこういうことのないようにと別居させてしまったのです。毎日柵ごしに顔を見あわせながら、早く一緒に欲しいなあ…というふうです。5月13日に赤ちゃんは初めて顔を少しのぞかせましたが、早ければ8月末頃には袋の中から出て来ることでしょう。



◎時ならぬ停電

動物園というところは時々びっくりするようなことが起きます。今回の停電もまさにハプニングでした。6月18日閉園後、園内が急に停電になってしまい、最初はすぐに復旧するだろうと楽観していましたが、その内復旧に時間がかかるという連絡がありました。さあ大変です。ちょうどペンギンを冷房舎に入れていますので、クーラーが止まってしまった以上、すぐに対策をとらなければなりません。ペンギンの室内は常時15～17℃位に保っており、この温度を保つために急きょ氷を入れることにしました。120 kgの氷を入れ、電気がつくまでペンギンたちにも暑い思いをさせないで済みませう。復旧したのは深夜の11時すぎ。電気工事の人たちは食事もせずに深夜まで復旧工事に努力していただき、全く頭のさがる思いです

(飼育課 宮下 実)

夢が広がるショッピング…… 近鉄がお届けします



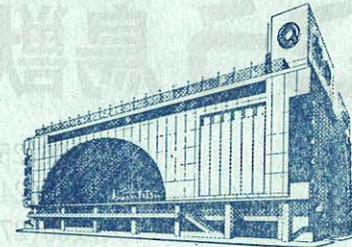
上本町近鉄 TEL.(06)779-1231



アベノ近鉄 TEL.(06)624-1111



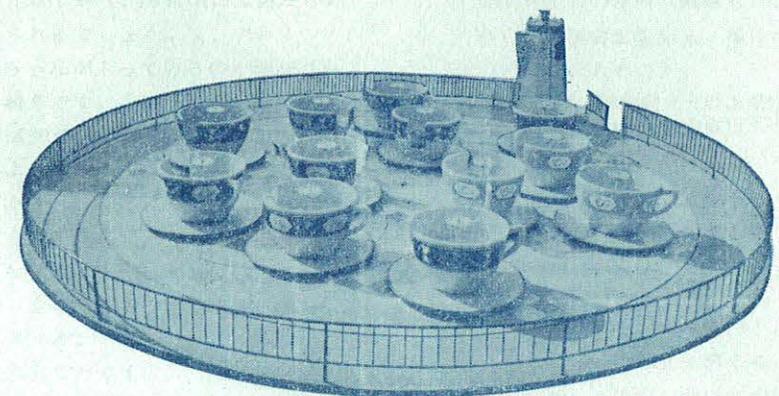
奈良近鉄 TEL.(0742)33-1111



東京近鉄



遊園施設委託経営・製作・販売

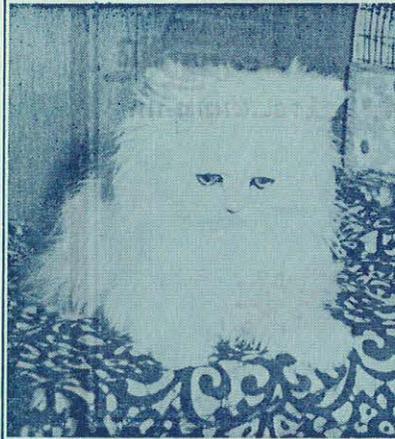


久竹 娛樂 株式会社

本社工場 大阪市西区南堀江通3-40
電話 大阪(06)541-3112・3938 番

世界の猫、小鳥と愛玩動物専門店

はく製製造卸・直輸入動物取扱い店
各国、犬種・シャム猫・ペルシヤ猫



大阪市南区心斎橋1丁目38

⊗ そごう 鳥獣部

そごう百貨店屋上 直通TEL

大阪06(252)5497
(241)9146
大阪06(271)2221
内線 2554

動物園ニュース

☆まだまだ続くオメデタラッシュ!

先月号のニュースでフラミンゴ3羽、シュバシコウ6羽が誕生したことお知らせしましたが、その後又各1羽づつふ化しフラミンゴは4羽、シュバシコウは7羽になりました。

又、ガン類ではカナダガンに続いて、ふ卵器に入れてあったマゼランガンが1羽、6月9日にふ化しました。人工での繁殖はこれが初めてと思われます。

ニホンシカは5月26日に1頭生まれたのを初めてとして5月29日、30日、6月1日、8日、10日に各1頭ずつ誕生し、計6頭が生まれましたが、惜しくも3頭死亡し残る3頭が元気に育っています。エゾシカも6月8日に2頭、13日1頭、19日1頭と計4頭誕生しました。これに続いてハナシカも3～4頭誕生の予定です。

一方カモシカ類は6月9日にエランド(メス1頭)とブラックバック(オス1頭)が誕生しカモシカ園をにぎわせています。

6月3日にはシマウマが1頭(オス)誕生しています。ここ4年間毎年1頭ずつ誕生しており、順調な繁殖ぶりです。

6月7日にはフサオマキザルが1頭誕生しました。当園では初めてのお産でしたが哺乳も良好で今後の成育が楽しみです。

6月9日、14日にアシカが各1頭生まれました。昨年も1頭生まれており、2年連続のオメデタに係員一同大喜びです。

カンガルーではハイロカンガルーの赤ちゃんがかなり大きくなってきており、8月頃には袋から外に出て来るのが見られるでしょう。又、アカカンガルーも袋の中に赤ちゃんが入っているのが確認されており、オメデタ続きです。

(写真についてはグラフを参照してください)

☆暑い夏に備えてよしず張り

夏を迎えるにあたり、動物達にもできるだけすずしく過してもらおうと、6月に入ってから各動物舎によしずを張りました。これだけでも夏の直射日光を防ぐことができ、かなり涼しくなります。よしずを張った所はシロクマ舎、ペンギン舎、小獣舎、ヤギ、ヒツジ舎、小鳥舎などです。

☆メンヨウの毛かり

6月1日、毎年恒例のメンヨウの毛刈りを行いました。長さ10cmほどの羊毛で全身がおおわれているだけに、最近の暑さにいささかバテ気味でしたが、飼育係員のなれたハサミさばきで1時間後には毛を

すっかり刈りおとされて、涼しげなスタイルになりました。



◎動物園サマースクールのお知らせ。

サマースクールを天王寺動物園と大阪市立自然史博物館の共催で行います。博物館で動物の骨を調べたり、動物園で飼育の実習をしたりして、3日間連続で行います。

日時：8月1日(金)、2日(土)、3日(日)

の3日間・毎日、朝9時半～午後3時まで。

参加資格：小学生4・5・6年生。ただし保護者の同意があつて居住地から会場まで毎日通える者。べんとうは持参のこと。

定員：30名。応募者が多い場合は抽選。

会場：第1日(8月1日)自然史博物館集會室
第2～3日(8月2～3日)天王寺動物園

申し込み：7月22日(火)までにとどくように往復ハガキで博物館普及係へ申しこむ。往復ハガキの往片には、①サマースクールに参加希望、②参加希望者の住所(電話も)、氏名(学校名、学年)、保護者名を記入。復片の表に自分の住所、氏名を記入のこと。

大阪市立自然史博物館(大阪市東住吉区東長居町)
大阪市天王寺動物園(大阪市天王寺区玉水町2)
参加者決定：23日に抽選の後、ハガキの復片を用いて参加できるかどうか通知します。

保護者の参加：第1日目は参加可。第2～3日目送迎のみにして下さい。

動物園での実習内容：飼育担当者1名につき参加者5名が班を作る。動物園の1日の仕事のうちで参加可能なところを実習する。(動物の世話や見学など)。内容についての問合せは天王寺動物園飼育課(電話771-8401)へ。

博物館での実習内容：動物の頭の骨や体の骨を調べスケッチする。

その他：持ち物その他、当日のくわしいことは、参加決定した人に通知します。

なきごえ 昭和50年7月15日発行 (毎月1回15日発行) 第11巻第7号(通巻120号)

編集/大阪市天王寺動物園

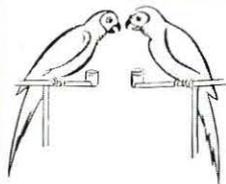
〒543 大阪市天王寺区玉水町2

発行人/大阪市天王寺動物園協会 和田辰巳

電話 大阪 (06)771-0201

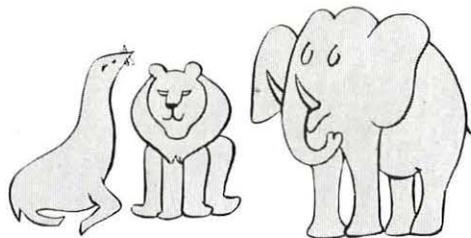
印刷所/株式会社 松村善進堂

振替口座 大阪 37823
定価100円(送料共) 1年継続(12部)1,100円(送料共)



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達



- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円

有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地
飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地

電話 (078)221-8195・221-1517
電話 (078)241-3494



自然の
おいしさ

全糖

- 合成甘味料・合成保存料・合成糊料・合成着色料はいっさい含まれていません。



雪印ヨーグル

各140c.c.=90円

パイン・オレンジ・ストロベリー・フルーツカクテル

編集委員

〈小谷 潔・林 邦彦・大野 尊信・米田 敏光・樽本 勲・田上 勝・中川 道朗〉
農本 武志・深井 和美・東 政宏・宮下 実・橋本 一郎・長瀬健二郎